

第3学年 音楽科学習指導案

平成29年

1 題材名「せんりつのくり返しやへん化を感じ取ろう」

2 題材の目標

旋律の特徴や反復・変化、再現を聴き取り、楽曲の構造に気付きながら曲全体を味わって聴く。

指導事項<学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容より>

「B鑑賞」(1) ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

〔共通事項〕フレーズ 旋律 反復・変化

3 児童の実態と題材設定の理由

第2学年より専科が担当している。音楽の学習への意欲が高く、歌唱や器楽における音楽表現の技能も高い。

鑑賞の学習では、音楽を聴いて体を動かしながら曲想を感じ取る活動を好み、友達と関わり合う経験を通して曲想に応じた動きの種類を増やしつつある。

第2学年では、体を動かしながら楽曲全体を聴いたり、楽器の音色やリズムから様子を表している音を見付け、楽曲全体の中でそれらの音がどのように表れるのかを楽しみながら聴いたりする活動を実践した。それぞれの題材の終末では、楽曲のよさや面白さを紹介文にして友達に伝える活動を設定し、音楽の感じを表す言葉を適切に使うことができるようになってきているが、音楽の要素と曲想との関わりを結び付けて言葉にしたり、音楽全体のよさや面白さを自分の言葉で文章にして述べたりする能力については課題がある。

そこで、今回は道具を媒介とした身体表現活動を取り入れた鑑賞の活動を設定し、体の動きだけでなく道具の動きも手掛かりとしながら聴くことで、曲想の変化の知覚・感受を深めるとともに、楽曲全体の構造の理解につなげていきたいと考え、本題材を設定した。

4 教材と使用音源

「ユモレスク」(ドボルザーク作曲)

この曲は、ピアノ曲として作曲された「8つのユモレスク」の中の第7番が原曲である。バイオリンの名手で作曲家でもあるクライスラーがバイオリン用に編曲してから人気を博し、様々な器楽や合奏に編曲された。「ユモレスク」とは、「諧謔、おどけ、道化、冗談、ユーモア」を意味する語であるが、19世紀において、旋律的で夢想とユーモアに富んだ、やや気まぐれな性格の器楽曲の

名称として用いられた。

使用する音源の曲の構造は A(a-b-a)→B→A(a-b)の複合三部形式で構成されている。Aa は、五音音階やシンコペーションのリズムが使われている。バイオリンの「アップ」「ダウン」の使い方によってシンコペーションの感じがより強調されている。Ab は、1 オクターブの跳躍進行の特徴があり、同じような進行でも強弱や続く旋律に違いがあることで、曲想の違いを楽しむことができる。B は短調に転調することでもの悲しい雰囲気を醸し出している。また、同じ旋律が反復される時に1 オクターブ高くなり強く演奏することにより、より切迫するような雰囲気を感じ取ることができる。次の A につながる直前にだけ旋律に第 6 音が使われ、V 度の和音から A(a-b)が再現されることで、曲全体のまとまりを感じ取ることができる。

「あめふり」(北原白秋作詞 中山晋平作曲)

東京社が出版していた児童雑誌「コドモノクニ」大正 14 年 11 月号に初めて掲載されたとされている。前半部分がスキップリズムの五音音階による旋律で構成されているため、昨年度実践した時に児童が「ユモレスク」の Aa と似ているとしていた楽曲であり、旋律の特徴をとらえやすい。

「この山光る」(阪田寛夫作詞 ドイツ民謡)

既習曲である。前半の旋律を後半の旋律では 2 倍の音価で模倣する二部形式の楽曲である。旋律が「ホラヒ」「ホラホ」の部分で跳躍することから「ユモレスク」の Ab の部分の跳躍を歌うことで感じ取ることができると考え教材とした。

5 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度 | 鑑賞の能力 |
|--|---|
| ①旋律の特徴や反復・変化、再現によって生まれる曲想の変化に関心をもって聴く活動に進んで取り組もうとしている。 | ①旋律の特徴や反復・変化、再現によって生まれる曲想の変化を知覚・感受している。 ②旋律の特徴や反復・変化、再現による曲想の変化によって生まれるよさや面白さについて、自分のことばでまとめている。 |

6 題材の学習指導計画 (全 3 時間)

| 時 | ○主な学習内容 ・主な学習活動 | ☆教師の支援 ◆評価 (評価方法) |
|---|---|--|
| | <ねらい>旋律の特徴を知覚・感受する。 | |
| 1 | ○旋律の知覚・感受 ・鑑賞曲「ユモレスク」を全曲通して聴く。 ・曲想が変化した部分について、どのように変わったのかを友達と話し合う。 ・3つの旋律の特徴を、図形楽譜で学習カードに記入する。 ・「あめふり」「この山光る」を歌い、「ユモレスク」の旋律と比較をする。 ・それぞれの旋律の特徴について、まとめる。 | ☆旋律の特徴を感じ取ることができるようにするために、体を動かしながら聴く活動を設定する。 ☆旋律の特徴に合った色の色鉛筆と図形で旋律の動きを記入する活動を設定する。 ☆旋律の動きを歌うことで確認する場を設定する。 ◆旋律の特徴や反復・変化、再現によって生 |

| | | |
|---|---|---|
| | | <p>まれる曲想の変化に関心をもって聴く活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【関一①】（行動観察・学習カード）</p> |
| <p><ねらい>旋律の特徴や反復・変化、再現によって生まれる曲想の変化を知覚・感受する。</p> | | |
| 2 本 時 | <p>○曲全体の構成の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ユモレスク」を聴いて、三つの旋律の動きを体で表す。 ・曲全体を旋律の動きで表しながら聴いて、曲想の変化について感じ取ったことを交流する。 ・グループで動きを共有しながら旋律の反復・変化を確認する。 ・グループで出された意見を交流する。 ・音楽の仕組みや曲想の変化について、感じ取ったことを学習カードにまとめる。 ・「ユモレスク」を聴いて、自分のまとめを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆前時の復習として、三つの旋律の動きを手で表したり図形楽譜を指で追ったりする活動を設定する。 ☆フレーズの雰囲気を感じ取ることができるようにするために、スカーフを使った動きの活動を設定する。 ☆曲全体を動く活動を通して、「はじめ」「なか」「おわり」の旋律の動きや反復・変化、再現による曲想の変化を感じ取ることができるようにする。 ☆児童の意見について確認するための聴く活動を随時設定する。 ☆動きを通して知覚・感受したことを言葉でまとめる活動を設定する。 ◆旋律の特徴や反復・変化、再現によって生まれる曲想の変化を知覚・感受している。 <p>【鑑一①】（行動観察・学習カード）</p> |
| <p><ねらい>旋律の特徴や反復・変化、再現による曲想の変化によって生まれるよさや面白さについて、自分のことばでまとめる。</p> | | |
| 3 | <p>○楽曲全体についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見ながら聴き、バイオリンの奏法と旋律の動きとの関わりを確認する。 ・「ユモレスク」の紹介文を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆バイオリンを演奏している様子を見て、音楽と動きの両方から音楽全体について味わいながら聴くことができるようにする。 ☆昨年度「ユモレスク」を学習している4年生に曲のよさや面白さが伝わるように書く活動を設定する。 ◆旋律の特徴や反復・変化、再現による曲想の変化によって生まれるよさや面白さについて、自分のことばでまとめている。 <p>【鑑一②】（行動観察・学習カード）</p> |

7 本時の学習(2 / 3 時間)

(1)ねらい

旋律の特徴や反復・変化、再現によって生まれる曲想の変化を知覚・感受する。

(2)学習の展開

| ○学習内容 ・学習活動 | ☆教師の支援 ◆評価 (評価方法) |
|---|--|
| <p>○音楽に合わせて体を動かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ユモレスク」を聴いて、三つの旋律の動きを体で表す。 <p>○学習のめあてを確認する。</p> | <p>☆前時の復習として、三つの旋律の動きをテニスボールで表したり、図形楽譜を指で追ったりする活動を設定する。</p> |
| <p>せんりつのくり返しやへん化を感じてきこう。</p> | |
| <p>○音楽の仕組みや曲想の変化について、気付いたことや感じたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を旋律の動きで表しながら聴いて、感じ取ったことを交流する。 ・グループで動きを共有しながら旋律の反復・変化や再現を確認する。 ・旋律の反復・変化、再現によって曲想がどのように変化しているのかを共有する。 ・グループで出された意見を交流する。 ・音楽の仕組みや曲想の変化について、感じ取ったことを学習カードにまとめる。 ・「ユモレスク」を聴いて、自分のまとめを確認する。 <p>○学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をする。 | <p>☆フレーズの雰囲気を感じ取ることができるようにするために、スカーフを使った動きの活動を設定する。</p> <p>☆曲全体を動く活動を通して、「はじめ」「なか」「おわり」の旋律の動きや反復・変化、再現による曲想の変化を感じ取ることができるようにする。</p> <p>☆それぞれの感じ取った曲想を確認するために聴きながら動いたり旋律を口ずさみながら動いたりする活動を設定する。</p> <p>☆児童の意見について確認するための聴く活動を随時設定する。</p> <p>☆動きを通して知覚・感受したことを言葉でまとめる活動を設定する。</p> <p>◆旋律の特徴や反復・変化、再現によって生まれる曲想の変化を知覚・感受している。</p> <p>【鑑-①】(行動観察・学習カード)</p> <p>☆次時は、紹介文を書くことを伝える。</p> |